

# JAPIC NEWS

# 6

2011 | No.326

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center



【ノゴマ】  
Siberian Rubythroat

全長15~16cm。ユーラシア大陸の中・高緯度地方の東側で繁殖し、冬季は東南アジアに渡って過ごす。日本では、夏の北海道の山地帯に幅広く生息する。普段は地上をはねながら、ミミズなどに飛びつき捕らえて食べる。雄ののどが赤色をしていることから、「日の丸」という俗称を持つ。雌ののどは白っぽい。「キョロキリ、キョロキリ、キーキョロチリリ」と声量のある声でさえずる。

## Contents

### ■巻頭言

「人の輪について」 熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系) 石塚 忠男 ..... 2

### ■インフォメーション

「第136回薬事研究会」開催 ..... 4

「平成23年度JAPICユーザ会」開催 ..... 4

### ■トピックス

JAPICサービスの紹介

臨床試験情報「JapicCTI」の登録状況 ..... 5

■海外で承認された医薬品(15) ..... 8

### ■コラム

最近の話題「『クラウド』の活用」

高崎健康福祉大学薬学部 分子薬化学研究室 中原 和秀 ..... 10

会員の声「東京スカイツリーを見上げながら」

ライオン株式会社 薬事部 薬事安全管理室 宇田川 昭洋 ..... 12

くすりの散歩道 No.46「街角にあるジェネリック論」

(財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当 織戸 進太郎 ..... 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) ..... 14

■図書館だよりNo.252 ■情報提供一覧 ..... 15

## 人の輪について

熊本大学大学院生命科学研究部 (薬学系)  
石塚 忠男 (Ishizuka Tadao)



はじめに、東北地方太平洋沖地震で被災されたすべての地域の皆様、そのご関連の皆様、心よりお見舞い申し上げます。

全国各地から薬剤師を含め多くの人々がボランティアとして被災地に集まり、復興のために働いている。何が足りない・必要だから、とかではなく、被災地の様子を見て、何かをしなければ、という気持ちになった上での行動なのだと思う。日本人特有なのかもしれないが、人の輪が自然に出来て、うまく動いているように感じられる。

日本人は輪(和)を重んじる、と言われることが多いが、何か行うときに初めから輪が出来上がっていることはほとんど無い。共通の目的に向かっている最中や、目的到達の後にできるというのが普通なのではないだろうか。ただ、最初に人の輪が出来ると、そのあとの作業が円滑に進むということは私も経験したことがあるので、紹介させていただきたく思う。最近、事を起こす前から具体的な成果や効率を明言することを要求されることが多く、人の輪など後回しにされがちであるが、実は大切なことであると私は信じている。目的をあまり限定せず人を集めるというのは、意図してやろうとすると決して簡単なことではないのであるが…

2000年ころから、私は熊本大学教員として、熊本県薬剤師会と共同で、県内の保険薬局の備蓄医薬品のデータを集め、各薬局がネット上で検索できるシステムを構築・管理しており、かなりの数の薬局が週1回程度のデータ更新を行うことにより、実用性の高いシステムとして稼働させている。言うまでもなく、薬局に持ち込まれた処方箋に記載された医薬品が無いときに、近隣の薬局から小分けしてもらおうための支援システムであり、医薬分業が推進され

るとともにその重要性は高くなってきている。

きっかけは、県薬の情報担当者とのメールのやりとりである。たまたま、紙媒体で備蓄医薬品のデータ収集・配布を行っていて、集計も大変だしデータのタイムラグも問題だという話を聞き、研究室で化学試薬の管理に使っていたオンラインデータベースを利用して簡単な検索システムを試作してみたのがすべての始まりである。

もちろん、このままでは県薬と大学との共同事業にはならないわけで、私は学部長に許可を取った上で県薬に対してオンライン検索システム開発の提案を行った。県薬から依頼されたのでも、大学から供与するのでもなく、あくまで、提案である。具体的な作業や目的は明示しなかったのであるが、システムの必要性を実感した人が集まり始め、実働部隊が形成され、あっという間にシステムのコアが出来上がった。この時点で、共同事業という前に、人の輪が形成された。

その後は速かった。データ収集のためのシステムも、薬局の業務実態を把握した方々と協力して作成できたし、システムの評価・修正も、現場での使用により厳格かつ迅速に行われ、現在使用しているものとはほぼ同じものが出来上がり、無料で公開することが出来た。和をもって作業しただけでほとんど経費はかかっていないので、ユーザーには課金しないというのは、議論する必要もないくらい、この輪の中では共通の認識であった。このときに集まった人の輪は、10年以上経った今でも続いている。

このシステムが10年以上継続できているのは、システム自体が人の輪によって成り立っていることにもよる。熊本県薬剤師会に所属する700を超える保険薬局は、所在地により分けられた16の支部に所属している。講習会・

勉強会、連絡などがこの支部単位で行われている現状を踏まえ、データ収集を、この支部単位で担当者が行う事としたのである。もちろん、データの転送などはインターネットを使って行うわけであるが、せっかく稼働している輪なので、手間が増えるのは承知の上でシステムに取り入れたのである。

通常、このようなオンラインシステムは、可能な限り作業を自動化し、人の手を使わずに動くように設計される。まったく逆行する設計なのであるが、むしろそのおかげで、本システムは継続できていると私は考えている。自動化されていないので、データがどのような経路で集まってくるのかが見え、皆の協力でシステムが成り立っていることが理解しやすいのである。無料で動くシステムにおいては、皆が少しずつ労力を分担することで成り立っているという自覚は大切である。人が動くわけなので、経費が全く発生しないというわけではないが、「システム運営に〇〇円」という事ではなく、あくまで人の輪の構築にかかる費用であり、システムはその延長線上にあるものである。まさに、人の輪によって保持されたシステムなのである。

このシステムの構築・運営のおかげで、いろいろな人との出会いがあり、さらに輪が広がった。いろいろな意見をもらい、備蓄医薬品検索だけでなく、薬局情報検索や研修会登録・掲示システムなど、必要性の高いシステムを開発することが出来た。すべて、備蓄医薬品検索システムでの人の輪を利用したものであり、今日に至るまで問題なく運営が続いている。トップダウンでシステム構築命令が下され、担当者が決められて進行した事業では、この様に順調に継続するのは難しかったのではないかと思う。

話はこれで終わりではない。2006年に6年制となった薬学部では、長期実務実習などで医療現場との連携が強く求められるようになり、熊本大学薬学部には2009年に附属施設として育薬フロンティアセンターが設置された。育薬とは、医薬品が発売された後、医療機関や患者の協力のもとに医薬品に関する情報を集め、それらの情報をもとに薬物治療を最適化することによって、患者にとってより使いやすく、有効性・安全性に優れる医薬品へと育て上げる活動のことであるが、大学として医療機関に協力して、この育薬活動を推進することをセンターの目的としている。

センターの組織として、専門薬剤師や治験コーディネーター養成という教育部門と、地域医療連携や基盤的研究連携による研究部門があるが、すべてを繋ぐも

のとして「育薬ネットワーク構築分野」というものが設置されている。育薬においては、情報の共有が極めて重要で、教育・研究における協力だけでなく、ヒューマンネットワークの構築が必須である。これはまさに今まで述べてきた、人の輪であり、薬剤師の輪と大学教員の輪を繋ぐために本センターはあり、この「育薬ネットワーク構築分野」は私が担当している。

そして今年度、育薬フロンティアセンターを窓口とした、備蓄医薬品検索システムでの情報収集ルートを活用して収集した医薬品の副作用情報を大学側がデータ解析する共同研究が開始された。薬局での副作用情報収集は、日本薬剤師会のDEM (Drug Event Monitoring) 事業として全国で行われているものだが、熊本県薬では、インターネットと人の輪を活用した方法で、迅速に大量の情報を収集・処理することを続けている。これを今回は、大学での人の輪と繋ぐことにより、極めて有意義な結果を生み出した。今後もさまざまな事象についての調査を続け、育薬活動に繋げていくことが期待されているところである。

大学が外部組織と連携するには、共同研究や研修会を行うことから始めるのがほとんどであり、それらの活動を通じて徐々に人の輪が出来ていくことが多い。今回紹介させていただいたケースは、それとは全く逆で、輪が先に出来て、活動・研究へと繋がっていった。このようなこともあり得るわけだし、輪のおかげで、すべてのことは非常にスムーズに進んだ。目的を絞り込みすぎずに人の輪を作ってみるというのも、あってもよい、と今は思う。

棚からボタモチ、と言われればその通りだしそれは私の好きな言葉でもある。いい結果をただ待っているという消極的な意味でなく、いいものが来たら逃さずに喰う、という意味であり、目的を絞りすぎて、せっかく目の前にある“おいしいもの”を逃すのはもったいないと考えている。なにしろ、私の専門分野は、輪と言ってもベンゼン環などを扱う有機化学なのである。医療の現場とは見た目はかけ離れており、どちらかというとも嫌いされる分野なので、共同研究などと持ちかけても振り向いてくれる人は少ない。医療現場のいろいろな操作を化学的に説明したり、効率的な操作を指導するなど、役に立てることも多いと思うのであるが…

10年以上継続してかなり大きくなった人の輪であるが、私の専門など知らない人がほとんどだと思う。そんなもんである。それがよかったのだと思う。



## 「第136回薬事研究会」開催

今回は、「GMP」をテーマに、平成17年の改正薬事法施行から5年間を振り返って、GMPの現状、今後の方向性、およびICH-Qトリオ（Q8、Q9、Q10）について、GMPの国際的な整合化の流れとGMPのあり方などについてご講演いただきます。多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

■日時：平成23年6月21日（火）14：00～16：20

■会場：科学技術館 サイエンスホール

東京都千代田区北の丸公園2番1号（TEL：03-3212-8448）

■参加費：JAPIC会員1名 3,000円 非会員 5,000円（当日会場でいただきます）

■お申込方法：JAPICホームページ（入力フォーム）からお申し込みください。

■プログラム：

14：00～14：05 主催者挨拶

14：05～15：05 「GMPの現状・方向性・将来展望について」

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 品質管理部長 櫻井 信豪 先生

15：05～15：20 休憩

15：20～16：20 「ICH-Qトリオ（Q8、Q9、Q10）について」

日本製薬工業協会 品質委員会GMP部会 寶田 哲仁 先生

\*演者、演題、時間は変更する場合がありますので予めご了承ください

## 「平成23年度JAPICユーザ会」開催

平成23年度のJAPICユーザ会を下記の要領で開催いたします。平成23年度の事業計画概要と重点化事業を中心にご紹介させていただきます。特別講演として、東京会場と大阪会場において医療法人社団 五十嵐クリニックの五十嵐正男先生にご講演いただきます。ユーザ会終了後簡単な懇親会も準備しております。多数の皆様のご出席をお待ち申し上げます。

■日時・会場

東京：平成23年6月27日（月）13：00～18：30 渋谷 長井記念ホール

大阪：平成23年6月30日（木）13：00～18：30 大阪 プリーゼプラザ803

■参加費：無料

■お申込方法：JAPICホームページ（入力フォーム）からお申し込みください。

■プログラム：（東京・大阪）

13：00～ 受付開始

13：30～13：50 平成23年度事業計画概要

13：50～15：10 各事業の現況と今後の取組み

15：10～15：30 休憩 コーヒータイム

15：30～16：00 事例報告

16：00～17：00 特別講演「平均寿命と健康寿命－ホームドクターの役割」

17：00～18：30 懇親会

《お問合せ先》 事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276）

## ■ 臨床試験情報「JapicCTI」の登録状況

### 1.はじめに

JapicCTIは2005年7月に登録・公開を開始し、もう直ぐ6年になろうとしています。この間、WHO Primary Registryに認定されたこともあり開始当初に比べ登録に対する理解が進み、登録数も順調に増加しています。2011年3月末までの登録状況を報告し、登録に際してご留意いただきたい点について述べさせていただきます。

### 2.登録状況

JapicCTIの登録を開始した2005年7月から2011年3月末までの登録状況は表1の通りです。総登録件数は1416件で、約半分近くの680件が英語でも登録されています。

また、JapicCTIに登録されている試験は企業から登録される治験がその多くを占めておりますが、大学病院など医療機関からの登録も僅かですが増えてきています。

「JapicCTIには日本で行われる治験はすべて登録されているのか」と、良く質問がありますが、(独)医薬品医療機器総合機構の治験届けの報告から見ると、最近の傾向としてはかなり登録されてきていると感じています。(表1)

表1. 2011年3月末までの総登録件数

	試験フェーズ\年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	合計
日本語	フェーズ1	1	3	14	13	37	63	131
	フェーズ1・2	6	2	5	4	13	5	35
	フェーズ2	57	27	41	37	117	90	369
	フェーズ2・3	9	8	11	13	19	10	70
	フェーズ3	122	93	92	88	141	167	703
	フェーズ4	16	6	4	7	13	9	55
	その他	15	2	4	2	8	22	53
	小計	226	141	171	164	348	366	1416
英語	フェーズ1	0	0	4	4	15	40	63
	フェーズ1・2	1	1	3	1	4	5	15
	フェーズ2	23	10	13	13	54	70	183
	フェーズ2・3	3	4	3	6	10	10	36
	フェーズ3	44	43	32	26	69	118	332
	フェーズ4	11	3	3	1	8	4	30
	その他	13	0	1	0	3	4	21
	小計	95	61	59	51	163	251	680

年度別の登録状況は表1、図1の通りです。WHO Primary Registryに認定された2009年秋頃から英語での登録が増加しています。昨年度からはWHOの要請及び厚労省医政局研究開発振興課からのご指導もあり、日本語・英語両方での登録をお願いしておりますが、昨年度は日本語・英語での登録が約70%行われるようになりました。(図1)

フェーズ別の登録状況は表1、図2の通りです。フェーズ4の試験は年間どのくらいあるのかとの質問もありますが、登録されている件数は図2の通りです。(図2)

# ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

## 3.結果の登録

2010年度までの結果の登録状況は、194件（内62件は英語でも登録）です。

結果については、ICH E3のサマリーフォーマットによる結果の概要の添付をお願いいたします。また、雑誌への掲載があった場合には該当項目の更新をお願いいたします。

## 4.登録上の注意事項

JapicCTIへの登録に際しては、「登録要領」をご参照の上、内容を記載し確認をお願いいたします。また、IFPMAの「臨床試験情報の開示に関する共同指針」に準拠していますので、最新情報（JapicCTI内に掲載あり）にもご注意ください。また、特に以下の点についてご留意いただきますようお願いいたします。

- 1) 記載内容の確認：WHO Primary Registryに認定されたことから、ICMJE傘下の国際的医学雑誌への投稿も可能なサイトになっておりますが、これら雑誌への投稿にはWHOが求める20項目のデータの記載が必要です。「登録要領」を確認の上必要項目の記述をお願いいたします。
- 2) 登録の重複チェック：JapicCTIではデータベースを検索し、重複が無いことを確認していますが、登録前のご確認をお願いします。
- 3) INNの記載：昨年WHOがINNの記載を求めています。
- 4) 薬効分類：治験中の薬剤もあり、JapicCTIの責任で対象疾患からみた薬効分類（日本標準商品分類から87を除いた3桁）を付与しています。
- 5) 英語登録時の注意：2バイト文字は使えません。例えば「全角記号」は使用できませんので「～」は、「-」（ハイフン）あるいはtoを使用する（“10～20kg”は、“10 - 20 kg”または“10 to 20 kg”など）。
- 6) 更新状況の確認：最終更新時又は登録時から1年を経過したもので、1年間更新の無い情報については、毎月10日頃JapicCTIから登録者に「更新状況確認メール」が送信されます。最新情報か否かの確認を問いかけるものです。内容に変更が生じた場合には速やかに更新をお願いいたします。
  - ・内容に変更がない場合：『継続中』ボタンを押下→更新が自動で行われる。
  - ・内容に変更がある場合：『更新』ボタンにて内容を更新する。
- 7) 『更新』ボタンと『修正』ボタンを間違える方が多いので注意をお願いいたします。
  - ・公開情報に変更があった場合には『更新』
  - ・未公開の状態に変更がある場合には『修正』
- 8) 未公開情報：本システムは、登録後JapicCTIの確認・承認を得て登録者の方に公開していただく仕様になっておりますが、未公開のままになっている情報がかなり存在します。公開された情報の削除はできませんが、未公開のものにつきましては、必要があればご相談ください。

図1. 年度別の登録状況

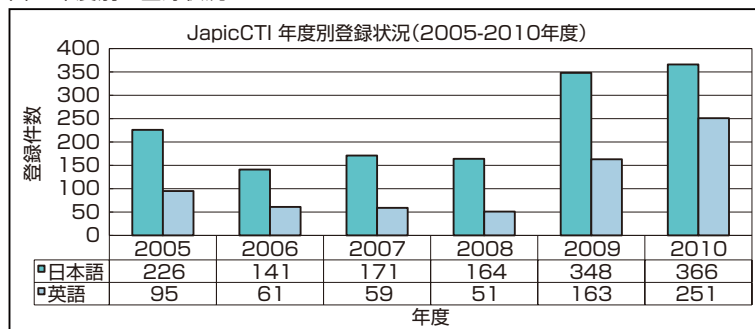
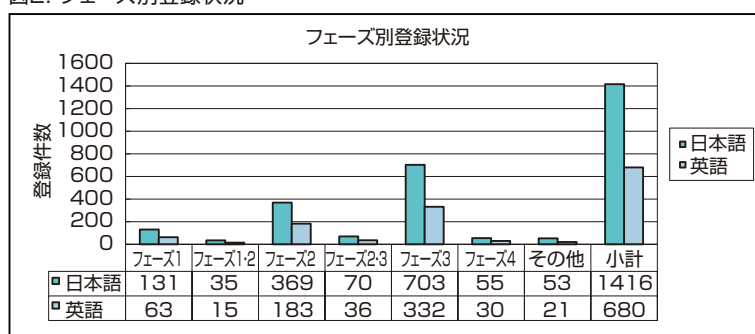


図2. フェーズ別登録状況



- 9) リンク情報の確認: リンクが切れている情報が記載されている場合、「リンク確認」のメールが送られます。毎週月曜日に送信されますので、ご確認をお願いいたします。特に、PMDAの添付文書へのリンク切れが多いのでご注意ください。
- 10) 登録者情報に変更があった場合 (特に会社名、住所、メールアドレスや所属部署の変更など)、速やかに変更届の提出をお願いいたします。
- 11) 作業中断が30分以上続く場合は、システム上タイムアウトになってしまいますので、ご注意ください。

## 5.その他

現在、JapicCTIはJPRN (Japan Primary Registries Network) の一員としてWHO Primary Registerに認定されていますが、WHO Primary Registry関連の他のサイトは以下の通りです。ご参考の上、今後の登録をよろしくをお願いいたします。

UMIN	<a href="http://www.umin.ac.jp/ctr">http://www.umin.ac.jp/ctr</a>
JMACCT	<a href="http://dbcentre2.jmacct.med.or.jp/ctrialr/">http://dbcentre2.jmacct.med.or.jp/ctrialr/</a>
国立保健医療科学院	<a href="http://www.rctportal.niph.go.jp">http://www.rctportal.niph.go.jp</a>
WHO	<a href="http://www.who.int./ictrp/en/">http://www.who.int./ictrp/en/</a>
ICMJE	<a href="http://www.icmje.org">http://www.icmje.org</a>

なお、現在WHO Primary Registryにはオーストラリア・ニュージーランド (ANZCTR)、ブラジル (ReBec)、中国 (ChiCTR)、韓国 (CRiS)、インド (CTRI)、キューバ (RPCEC)、ドイツ (DRKS)、イラン (IRCT)、ISRCTN.org、日本 (JPRN)、オランダ (NTR)、アフリカ (PACTR)、スリランカ (SLCTR) が認定されています。

(JapicCTI担当 太田 福子)

### 現在WHO Primary Registryに認定されているサイト

#### Primary Registries in the WHO Registry Network

Primary Registries in the WHO Registry Network meet specific criteria for content, quality and validity, accessibility, unique identification, technical capacity and administration. Primary Registries meet the requirements of the ICMJE.

The registries that currently meet these criteria are:

Australian New Zealand Clinical Trials Registry (ANZCTR)	Profile	Go to Website
Brazilian Clinical Trials Registry (ReBec)	Profile	Go to Website
Chinese Clinical Trial Registry (ChiCTR)	Profile	Go to Website
Clinical Research Information Service (CRiS), Republic of Korea	Profile	Go to Website
Clinical Trials Registry - India (CTRI)	Profile	Go to Website
Cuban Public Registry of Clinical Trials (RPCEC)	Profile	Go to Website
German Clinical Trials Register (DRKS)	Profile	Go to Website
Iranian Registry of Clinical Trials (IRCT)	Profile	Go to Website
ISRCTN.org	Profile	Go to Website
Japan Primary Registries Network (JPRN)	Profile	Go to Website (in Japanese) Network members: UMIN CTR Website JapicCTI Website JMACCT CTR Website
The Netherlands National Trial Register (NTR)	Profile	Go to Website
Pan African Clinical Trial Registry (PACTR)	Profile	Go to Website
Sri Lanka Clinical Trials Registry (SLCTR)	Profile	Go to Website

# 海外で承認された医薬品(15)

JAPICでは、医薬品の有効性・安全性・規制・承認に関する海外の情報を収集し、各種媒体で提供を行っております。本シリーズでは、海外で承認された医薬品のうち、米国、EUにおける新有効成分 (New Molecular Entity : NME) 医薬品を中心に随時紹介します。

## ◆米国：2型糖尿病治療薬Tradjenta (linagliptin) 承認 承認日：2011年5月2日

米国FDAは、Boehringer IngelheimおよびEli Lilly & Co. のTradjenta (linagliptin) を承認した。食事療法および運動療法と併用で2型糖尿病の成人患者における血糖調節の改善に使用される。Tradjentaの有効成分linagliptinはdipeptidyl peptidase-4 (DPP-4) 阻害剤である。5mgの錠剤で、推奨用量は5mgを1日1回経口投与。

Tradjentaの有効性と安全性は、2型糖尿病患者3,800例を対象に、8つの二重盲検プラセボ比較試験において、単剤で、または既存の糖尿病治療薬 (metformin、glimepirid、pioglitazone) と併用で検討された。プラセボと比べて、TradjentaによりHbA1C、空腹時血糖および食後2時間血糖の臨床的に有意な改善が認められた。

Tradjentaにより最もよくみられた副作用は上気道感染、鼻水・鼻づまり、咽頭痛、筋肉痛、頭痛であった。蕁麻疹、血管性浮腫、気管支反応性などlinagliptinに対する過敏症反応の既往を有する患者には禁忌である。Tradjentaはinsulinと併用での試験は行なわれていない。1型糖尿病患者または糖尿病性ケトアシドーシスの治療に使用すべきではない。Tradjentaをinsulin分泌促進剤 (sulfonylureaなど) と併用する場合、低血糖のリスクを軽減するためinsulin分泌促進剤の用量減少を考慮すること。Tradjentaは他のDPP-4阻害剤sitagliptin、saxagliptinと異なり、腎臓を通して排出されないため、腎障害を有する患者に対して適しているかもしれない。

(EU：申請中、国内：申請中)

## ◆米国：末期前立腺癌治療薬Zytiga (abiraterone acetate) 承認 承認日：2011年4月28日

米国FDAは、Centocor Ortho Biotech Inc.のZytiga (abiraterone acetate) を承認した。化学療法 (docetaxel) の治療歴を有する末期の転移性去勢抵抗性前立腺癌患者の治療にprednisoneと併用で使用される。Zytigaの有効成分abiraterone acetateはlyase阻害剤である。テストステロン生成に関与するタンパクCYP17A1を標的とし、癌細胞の増殖を刺激するテストステロンの生成を減少させる。Zytigaはpriority review drugに指定されていた。250mgの錠剤で、推奨用量は1,000mgを1日1回経口投与。胃を空にした状態で服用すること。

Zytigaの有効性と安全性は、docetaxel治療歴を有する末期の去勢抵抗性前立腺癌患者1,195例を対象とした臨床試験において評価された。prednisoneとの併用でZytiga 1日1回またはプラセボが投与された。評価項目は全生存期間、治療開始から患者の死亡までの期間とした。全生存期間の中央値は、プラセボとprednisone併用患者の10.9ヵ月に比べて、Zytigaとprednisone併用患者では14.8ヵ月であった。

Zytigaにより最もよくみられた副作用は、関節の腫脹または不快感、血中カリウム濃度低下、体液貯留、筋肉痛、紅潮、下痢、尿路感染、咳、血圧上昇、心拍障害、頻尿、夜間排尿増加、胃のむかつきまたは消化不良、上気道感染であった。Zytigaは妊婦または妊娠する可能性のある女性には禁忌である。

(EU：申請中、国内：Phase I)



◆EU: Glaxo Group Ltd. の抗てんかん剤  
Trobal (retigabine) 承認  
承認日: 2011年3月28日

EU・EMAは、Glaxo Group Ltd.のTrobal (retigabine) を承認した。18才以上の成人におけるてんかん部分発作（二次性全般発作の有無にかかわらず）の治療に、補助療法として使用される。Trobalの有効成分retigabineはカリウムチャネルオープナーである。推奨維持用量は600mg/日から最大1,200mg/日。100mg錠1日3回で開始して1週間投与後、患者の反応により50mg/週ずつ増量する。

Trobalの有効性は、他の抗てんかん剤により適切に管理されなかったてんかん患者1,244例を対象に、3つの主要な試験（多施設無作為化二重盲検プラセボ比較試験）において評価された。Trobalは、600、900、1,200mg/日の維持用量にて、最初の試験は8週間、他の2つの試験では12週間投与された。有効性の主要評価項目は、最初の試験では1ヵ月当りの発作回数の変化、他の2つの試験では発作が50%以上減少した患者

数とした。Trobalは、発作回数の減少においてプラセボより有効であった。最初の試験において、Trobal 900、1,200mg/日の投与により、1ヵ月当りの発作回数はそれぞれ29%、35%減少、プラセボでは13%であった。2つ目の試験では、Trobal 900mg/日投与患者の39%（158例中61例）、900mg/日投与患者の47%（149例中70例）で発作回数が50%以上減少し、プラセボでは19%（164例中31例）であった。3つ目の試験では、Trobal 1,200mg/日投与患者の56%（119例中66例）で発作回数が50%以上減少し、プラセボでは23%（137例中31例）であった。

Trobalにより最もよくみられた副作用（1/10例以上）は、眩暈、傾眠、疲労感、錯乱状態であった。Trobal服用中は車の運転や機械の操作をしないよう助言することが勧められる。Trobalは、retigabineまたは本剤の他の成分に対して過敏症を有するおそれのある患者には使用すべきではない。

（米国：申請中）

出典：FDA News Release、Drugs@FDA、EU・EMA  
EPARなど

（医薬文献情報担当・海外）



# 最近の話題

## 『クラウド』の活用

高崎健康福祉大学薬学部 分子薬化学研究室  
中原 和秀 (Nakahara Kazuhide)



### 1. 情報化社会

インターネット普及によって情報があふれている現在、パソコンは1人1台ではなく、携帯電話などを含めるとパソコン1人1台以上という時代になりつつある。それにより情報収集（インプット）するだけでなく、収集した多量の情報から目的の情報を引き出す（アウトプット）必要がある。

しかしながらあまりに多い情報は整理が難しく、パソコンのデスクトップ上に情報が散乱することや系統的にフォルダを作ってもフォルダが多くなりすぎて、目的のデータになかなか辿り着けないことがよくある。また最近の仕事でもプライベートでも電子メールのやりとりが多くなり、どのパソコンまたはモバイルでメールを受けたか分からなくなり、大事なメールを探し出せないこともある。

そこで今回、最近よく耳にする『クラウド』または『クラウドコンピューティング』を用いた私が現在行っている情報整理を紹介しようと思う。

### 2. 『クラウド』

『クラウド』とは、ネットワークを通じてソフトウェアとデータ管理が一体となっていて、ユーザーは世界中どこでもインターネットに接続できる環境さえあればサービスを受けることができるものである。有名なものはGoogle社のGmailというメールアプリケーションで、大学や企業によっては既に取り入れているところもある。さらに『クラウド』には、『パーソナルクラウド』という自分の領域をネットワーク上に作り、利用することができるものもある。

『パーソナルクラウド』で私がよく利用しているものは、EvernoteとDropboxである。

Evernoteとは、Evernote Corporationが提供する無料（一部有料）の個人ドキュメント管理システムであり、同社が提供するサーバ上にテキスト・画像・PDFファイル等のデジタルデータを保存することができ、携帯電話などのモバイルを含めた複数のパソコンから検索・閲覧することができるものである。

またDropboxとは、Web上に自分専用のハードディスクを持つことができるオンラインストレージサービスであり、Web上の自分専用ハードディスクにファイルを保存することができ、データをUSBメモリーや外付けHDDなどの外部記憶装置を使って持ち運ぶ必要がなく、自宅のパソコン、会社のパソコン、ノートパソコンなどの複数のパソコンデータを一元管理できるものであり、Evernoteと違い、編集したいファイルをフォルダごと保存でき、大容量のファイルも保存可能である。

これら2つのアプリケーションを利用すると、インターネットに接続する環境さえあれば、家でもどこでもデータを閲覧・編集することができる。今までのようにUSBメモリーでデータを移動させる必要がなく、USBメモリーの紛失も回避できる。

### 3. 『パーソナルクラウド』を用いた医薬品情報及び医学薬学に関する情報の整理

インターネットのWebページを用いた医薬品情報および医学薬学に関する情報の検索では、最新情報が手に入る。

医薬品情報は、医薬品医療機器総合機構が各製薬会社から提供される添付文書をもとにデータベースを作成している医療用医薬品添付文書情報や医療用医薬品の承認審査情報、日本OTC医薬品協会及びセルフメディケーションデータベースが提供するおくすり検索（一般用医薬品添付文書の検索サイト）、日本医薬情報センターが提供している「iyakuSearch 医薬品情報データベース」、日本中毒センターが提供している化学物質や中毒に関する情報のデータベースなどが挙げられる。

一方、医学薬学に関する情報は、米国国立医学図書館がインターネット上に無料で提供する医学文献データベース「PubMed」や主に日本の学協会誌・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索の対象とする「国立情報学研究所論文ナビデータ (CiNii)」を利用した学術論文、英文や

和文の電子ジャーナル、病気や治療に関する情報としてメルクマニュアルなどが挙げられる。さらに医学薬学に関する文献検索サイトであるSciFinderのモバイル版が先月から新しくリリースされ、スマートフォンなどの携帯やモバイルノートから閲覧することも可能となった。

これらのデータベースから目的の情報を選び出し、自分のパソコンのデスクトップ上に『保存』すると、たちまちデスクトップ上がPDFなどの情報、さらに開いたサイトのウィンドウでいっぱいになる。そんなとき、さきほど紹介したEvernoteを使うと便利である。PDFなどのファイルなどは、ドラッグ&ドロップするだけでEvernoteに取り込むことができ、サイトの方は、マウスの右クリックで「Add to Evernote」をクリックして取り込むことができる。またインターネット上の情報だけではなく、学会、勉強会などに参加したときでもEvernoteに取り込みたい情報がある。今までは勉強会の資料、会議資料、名刺などの紙情報は、あとで重要になるかもしれないと思い、机の上や本棚、引き出しなどに片付けると、いざ目的の情報を探すときは一苦勞する。このような紙情報は、スキャナーを用いてPDF化して、Evernoteに取り込む。取り込んだこれらの情報を検索・閲覧するとき、Evernoteの検索機能の充実さに驚かされる。PDFの中身（PDF上の言葉）の検索、タグごとの仕分け、日付、キーワード検索、最初のページだけを一度に閲覧することができる。

Evernoteで情報を整理した後、Dropboxにワード、エクセル文書、プレゼンテーション用の資料を作成し保存する。この操作も非常に簡単でDropbox専用のフォルダに保存したいファイルをドラッグ&ドロップするだけである。あとはインターネットが接続する環境さえあれば、いつでも作成・編集することができる。またスマートフォンなどの携帯やモバイルノートで情報を引き出すことも可能である。

まとめるとデジタルデータはとりあえずEvernoteに放り込み、また紙情報はスキャナーを用いてPDFにして、それからEvernoteへ。何度か編集したい情報はDropboxへ。

今回EvernoteとDropboxを中心に紹介してきたが、Google社が提供しているクラウドもおすすりである。メールアプリケーションのGmailはもちろんのこと、人と

データを共有化して共同で文書を編集していくGoogle documentsなどクラウド機能が充実している。

#### 4. まとめ

これから『クラウド』はますます私たちの日常生活のすみずみに入り込んできて、きつてもきれいな存在となっていくだろう。今後、地域・組織間においてクラウド化が実現し、クラウドによるデータベースが構築され、それにより情報が共有化できると、リアルタイムな状況が逐一確認できるようになる。またデータのバックアップ機能としても利用可能である。

しかしながらクラウドの導入は、個人情報などの保護、ネットワークダウンやサーバ攻撃などのネットワーク障害の観点から考えると、クラウドによるデータ管理は、データ流出、機能停止の危険性を併せ持っている。したがってクラウドに完全依存することは、非常に危険であり、慎重に導入していく必要性が感じられる。

また私自身大学に身を置くものとして大学の教育現場において『パーソナルクラウド』が実践できるところを考えてみた。

1つは、卒業論文作成である。学生は、ワード、エクセル文書で卒業研究をまとめ、さらに研究発表などパワーポイントを活用するが多い。これらの資料を『パーソナルクラウド』を用いて円滑に論文や発表資料を作成し、さらに指導教員と情報を共有化することでより密度の高いディスカッションができ、より良い卒業論文に仕上がると期待できる。

2つめは、薬局病院実務実習である。6年制の薬学部生は5カ月間実務実習が必修となっている。その実習には、毎日学生が日々勉強した事柄について書き留める日誌がある。その日誌とそれに伴う資料などの情報を『パーソナルクラウド』で整理する。そして著作権や個人情報に関わる問題には十分に配慮しながら、大学教員、指導薬剤師、学生間で情報を共有化し、一元管理することで統一したシステム構築が実現できる。

今回紹介した『クラウド』など新しいIT技術を取り入れた薬学教育の実現は、薬の最新情報に迅速に対応できる質の高い薬剤師を生み出すことにつながる事が期待できる。



# 会員の声



## 東京スカイツリーを見上げながら

ライオン株式会社 薬事部 薬事安全管理室  
宇田川 昭洋 (Udagawa Akihiro)

隅田川の東岸、両国の地にライオン株式会社があります。明治24年創業で、本年で120年を迎えます当社は、歯磨やハブラシ（デンター、クリニカ、システム）、衣料用洗剤・柔軟仕上げ剤（トップ、アクロン、ソフラン）、住居用・台所用洗剤（チャーミー、ママレモン、ルック）の会社と認識されている方も多いかと思いますが、医薬品（バファリン、スマイル、グロンサン）、さらにボディケア製品（BAN、キレイキレイ）、ヘアケア製品（ソフトインワン、毛髪力、バイタリス）、殺虫剤（バルサン）などさまざまな製品を展開しており、皆様も一度は手にされている製品があるのではないのでしょうか。

さて、私は薬学部出身ではありますが、薬品以外でも仕事をしたいと考えてライオンを就職先として選びましたが、その希望が見事にかなえられまして（?）、現部署に異動するまでは医薬品に直接関係する仕事を経験しませんでした。では、何をしてきたかといいますと、制汗剤の“BAN”、育毛剤の“毛髪力”、防水スプレーの“レインガード”、さらにペット用トイレ製品などの開発を行ってきました。制汗剤では主なターゲットが若い女性であり、育毛剤では中高年男性であり、当時の私としては理解できないニーズを探るのに苦労しましたが、それにも増して難しかったのがペット用トイレ用品（犬用トイレシート“Salari”、猫トイレ用の砂“ペットキレイ ニオイをとる砂”）の開発です。

ペット用の製品は、直接のユーザーである犬や猫が満足することは当然ですが、ペットは製品を買ってはくれませんので、製品を買ってくださる飼い主の方にも満足していただくなくてはなりません。当時の開発チームでは私も含めて誰も犬や猫を飼育していなかったので、まずペット飼育家庭の訪問調査を行い、その現状を肌で感じて開発の方向性を探りました。そして、ペットが普通に使用してくれるということは当然クリアした上で、「ペットを飼っ

ているから部屋が臭うのは当たり前である」という飼い主の既成概念に着目し、「ペットの臭いに敏感なお客様でも安心してお部屋に迎えることができる」というコンセプトで製品を開発しましたが、これらの製品はペット用品市場で高い評価を獲得しており、良い製品を開発することができたと自負しております。（注：ペット用品は、関連会社であるライオン商事での扱いになります。）

その後、薬事安全管理室におきまして主に安全性情報の収集・解析業務を担当しておりますが、その情報源となるのがJAPICによる国内外の文献学会情報です。膨大な調査範囲から当社に関連する情報を的確にピックアップしていただいております、短時間で大量の情報処理が可能ですので業務は大きく効率化され、大変感謝しております。

このような情報調査業務は完全にデスクワークですので、異動直後に運動不足を感じ、思い切ってスポーツクラブに入会しました。ハードな筋力トレーニングだけでなく、疲れているときにはのんびりとヨガなどで汗を流したり、また休日を利用して長距離（30km程度）も走っています。その結果、長年悩まされていた膝や腰の痛みは軽減し、体脂肪率も約5%下がり、健康診断でも異常なしをキープしており、薬の仕事始めてから薬の御世話になることがめっきり少なくなりました。

最後になりますが、仕事の合間に窓から外を見ると、建設中の東京スカイツリーを間近に見上げることが出来ます。現部署に異動してきた2009年夏には100m足らずの高さでしたが、すでに最高高さである634mに到達しています。私はまだ医学、薬学の知識も十分ではありませんし、安全性情報業務の経験もわずかしかなかった。東京スカイツリーのような大きな業績とまではいなくても、いつかこの業務において着実な実績が残せるよう、JAPICとともに歩んでいければと思います。



# くすりの散歩道

NO.46

## 街角にあるジェネリック論

(財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当  
織戸 進太郎 (Orido Shintarou)



「ジェネリック」ああ、例の薬のあの俳優のアレのことか…。一般の人でもそう思うほど有名になったこの言葉。いわゆる特許が切れた医薬品を先発会社以外の会社が製造供給した後発医薬品のことである。

ジェネリック医薬品をめぐるのは、いろんな人の思惑が交錯し、さまざまな論争が起こり、ときには裁判沙汰になったりもするようだが、この話を初めて聞いたときに、デジャブというか、なんだか聞いたことのある話だなという印象を受けた。同じ医薬品業界の話。しかも一般の人にとってはずっと身近なところで。

みなさんは、馴染みの薬やドリンク剤を買いに最寄のドラッグストアに行ったときに、「こちらのほうが効き目がいいですよ」とか「こっちのほうが量も多くてお買い得ですよ！中身は変わりません」と言われて、聞いたこともない名前の薬、あるいは聞いたことがあるような気がする名前の薬を勧められたことはないだろうか？これは、プライベートブランド医薬品（以下PBと略す）であることが多い。PBとは、大手メーカーが商業展開等をして大々的に販売しているナショナルブランド医薬品（以下NBと略す）に対して、そのドラッグストア等が独自で販売している商品である。最近ではスーパーやコンビニでも同様の販売戦略が見受けられるので、ピンと来た人もいないのではないだろうか？

PBは販売店にとってはNBに比べて利益率を高く設定できることや、もしその商品を気に入ってもらえた場合、他系列の店では手に入らないので、また同じ店に買いにきてもらえる、つまりリピーターになってもらえる可能性が生まれる等のメリットがある。こ

こまでは販売店側の事情。

じゃあ、お客さんにとってのメリットは？もちろんある。むしろ、お客さんにとってなんらかのメリットがなければ、わざわざ馴染みのある薬を棚に戻し、別の薬を買ってもらえる道理がない。よくある例としては、まず競合商品と比べて販売価格が安いことや、効き目が長い、有効成分が追加されている等のそれぞれの優位な点を説明する。そして気に入ってもらえればお勧めする商品を買っていただけるという段取りになる。

やはり気になるのは、「品質」。品質はどのようなことだが、医薬品製造業許可を持ったメーカーが製造していることは当然として、蓋を開けてみれば製造元はNBメーカーだったりする例もあり、必ずしも安かろう悪かろうというわけでもない。ほら、なんだか聞いたような話になってきたでしょう？

ドラッグストア等で販売されている薬、いわゆる一般薬には、「セルフメディケーション」という概念がある。これは選択する権利も責任もお客さん（患者）にあるという考え方だ。なるべく公正な立場を心がけたつもりではあるが、最終的にこっちを買え！という話ではないことを付け加えておきたい。

もし、あなたが薬を買いに行き、自分が求めていたものと別の薬を勧められたら、2つの薬の箱書きをじっくり睨んで（店員の顔も睨んで）納得のゆくまで説明を求めてかまわない。レジが混んでいても嫌な顔をする店員はおそらくいないだろう。（幸い後ろのお客さんの顔はこちらからは見えない）適切な説明ができて納得した顔で商品を買ってもらえるかどうか、その店員の腕の見せ所でもあるからだ。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2011年4月1日～4月28日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.298-302)の記事から抜粋

## ■米FDA

- 注意欠陥多動性障害 (ADHD) の小児に使用される興奮薬の安全評価について (2011年4月更新) : ADHD治療薬に関連した心血管系リスクの可能性を調査した研究の予備結果について、FDAが現在レビュー中  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/InformationbyDrugClass/default.htm>>
- 長時間作用型βアゴニスト (LABAs) : 安全な使用に関する新たな要求 (最新情報)  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm201003.htm>>
- Teva Pharmaceuticals のLansoprazole徐放性口腔内崩壊錠: 経口注射器および栄養チューブを閉塞するとして医療専門家向けレターにより注意喚起  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm251575.htm>>
- Opioid剤とリスク評価・リスク緩和戦略 (REMS) (更新情報)  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/InformationbyDrugClass/ucm163647.htm>>

## ■英MHRA

- GlaxoSmithKlineのLamictal 200mg錠 (lamotrigine) に関するClass 2 Drug Alert: 溶解の遅れについて  
<[http://www.mhra.gov.uk/home/idcplg?IdcService=GET\\_FILE&dDocName=CON114406&RevisionSelectionMethod=LatestReleased](http://www.mhra.gov.uk/home/idcplg?IdcService=GET_FILE&dDocName=CON114406&RevisionSelectionMethod=LatestReleased)>

## ■EU・EMA

- EUにおけるOnsenal (celecoxib) の製造販売承認の撤回に関するPublic Statement  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Public\\_statement/2011/04/WC500104950.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Public_statement/2011/04/WC500104950.pdf)>
- European Medicines Agency, bisphosphonatesと非定型骨折に関するクラスレビューを終了: 稀にみられる非定型大腿骨骨折はbisphosphonatesのクラスエフェクトであると結論  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/04/WC500105281.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/04/WC500105281.pdf)>
- European Medicines Agency, Pandemrixに対する暫定措置を勧告—処方情報の改訂  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/04/WC500105278.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/04/WC500105278.pdf)>

## ■独BfArM

- Thalidomide Celgene (thalidomid (thalidomide) ) のRote-Hand-Brief: 血栓塞栓症の発生について  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-thalidomide.html>>

## ■豪TGA

- 豪TGA、肺炎球菌ワクチンPneumovax 23に関する予防措置を勧告; 2回目の接種により有害事象 (ワクチン接種部位の疼痛、腫脹など) の発生率が増加したのを受けて  
<<http://www.tga.gov.au/newsroom/media-2011-pneumovax-110417.htm>>

## ■医薬品医療機器総合機構

- 製薬企業からの医薬品の適正使用に関するお知らせ: レブラミドカプセル5mgの安全性情報のお知らせ 二次発がんの潜在的リスクについて  
<[http://www.info.pmda.go.jp/iyaku\\_info/file/kigyo\\_oshirase\\_201104\\_1.pdf](http://www.info.pmda.go.jp/iyaku_info/file/kigyo_oshirase_201104_1.pdf)>

## ■厚生労働省

- 医療機器自主回収 (クラスI) のお知らせ (植込み型除細動器パラダイムVR他2品目)  
<<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001akes-img/2r9852000001akg9.pdf>>
- 「抗心不全薬の臨床評価方法に関するガイドライン」の改訂について  
<<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T11040110020.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.liblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

書名 (配列は書名のアルファベット順)	著編者	出版者	出版年月
A Reference Guide to Fetal and Neonatal Risk Drugs in Pregnancy and Lactation 9th ed.	Gerald G.Briggs, Roger K.Freeman & Sumne	Lippincott Williams & Wilkins	2011年
安全管理、製造販売後調査の実施のための医薬品の適正使用と安全対策—PMSの歴史	高橋春男	じほう	2011年4月
British National Formulary No.61	John Martin ed.	BMJ Publishing Group	2011年3月
CPS 2011 Compendium of Pharmaceuticals and Specialties—The Canadian Drug Reference for Health Professionals—	Carol Repchinsky ed.	Canadian Pharmacists Association	2011年
第十六改正日本薬局方	厚生労働省	厚生労働省	2011年3月
Data Book 2011	日本製薬工業協会 広報委員会 編	医薬出版センター	2011年3月
ハイリスク治療薬 2011	阿南節子 他編	じほう	2011年1月
保険薬事典Plus+ (適応・用法付 薬効別薬価基準) 平成23年4月版	薬業研究会 編	じほう	2011年4月
保険薬事典 薬効別薬価基準 平成23年4月版	薬業研究会 編	じほう	2011年4月
医療用医薬品品質情報集 (平成23年3月版)	厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2011年3月
「医療用医薬品添付文書」作成の手引き—改訂版2009— (附:添付文書作成関連資料—覧)	日本製薬工業協会 医薬品評価委員会PMS部会	医薬出版センター	2009年5月
医薬品GLPと毒性試験の基礎知識	馬屋原 宏 著	薬事日報社	2011年1月
医薬品製造承認品目一覧 2011年版 (2010年1月～12月承認分)	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年4月
情報をいかす 医薬品マーケティング ドラッカーの思想に学ぶ	羽田治郎	同人社	2011年2月
化粧品・医薬部外品製造販売ガイドブック 2011-12		薬事日報社	2011年2月
今日の診断指針 第6版 ポケット版	金澤一郎、永井良三 総編集	医学書院	2010年3月
今日の診療のために ガイドライン外来診療 2011	泉 孝英 編集主幹	日経メディカル開発	2011年3月
薬と社会をつなぐキーワード事典	「薬と社会をつなぐキーワード事典」編集委員会 編	本の泉社	2011年3月
Martindale: The Complete Drug Reference. 37th edition	Sean C Sweetman Ed.	Pharmaceutical Press (GBR)	2011年4月
MIMS TAIWAN Taiwan Index of Medicak Specialities 台湾薬品手冊42nd Edition 2011 1st Issue 2011	Leong Wai Fun	CMPMedica Pacific Limited	2011年
日本造血細胞移植学会 平成22年度全国調査報告書	日本造血細胞移植学会データセンター	日本造血細胞移植学会データセンター	2011年3月
日経ヘルス サプリメント事典 第4版	日経ヘルス 編	日経BP社	2011年3月
レビー小体型認知症 即効治療マニュアル	河野和彦	フジメディカル出版	2011年4月
臨床検査法提要 改訂第33版	奥村伸生、戸塚 実、矢富 裕 編	金原出版	2010年4月
産婦人科診療ガイドライン—産科編2011	日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会 編	日本産科婦人科学会	2011年3月
成分から調べる医薬品副作用報告—覧 過去5カ年累積データ (2004年4月～2009年11月)	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2011年5月
歯周病患者における抗菌療法の指針 2010	日本歯周病学会 編	日本歯周病学会	2011年3月
USP DICTIONARY of USAN and International Drug Names 2011	The United States Pharmacopeial Conventi	USP Convention, Inc.	2011年
薬事ハンドブック 2011	じほう編	じほう	2011年3月
薬事法・薬剤師法、毒物及び劇物取締法解説 第21版 医薬品販売制度改訂対応版	青柳 健太郎 他著	薬事日報社	2011年2月



## 情報提供一覧 【平成23年5月1日～5月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>
1. [JAPIC Pharma Report—海外医薬情報]	5月6日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [Regulations View Web版] No.214—215	5月13日・27日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「添付文書入手—覧」2011年4月分 (HP定期更新情報掲載)	5月6日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「成分から調べる医薬品副作用報告—覧」	5月10日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. [JAPIC NEWS] No.326 6月号	5月27日	5. 臨床試験情報	随 時
6. [JAPIC医療用医薬品集2011] 更新情報2011年5月版	5月31日	6. 日本の新薬	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		7. 学会開催情報	月 2 回
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.782—784 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a>
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.2423—2441	毎 日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
5. JAPIC Weekly News No.302—304	毎週木曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.390—393	毎週月曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
7. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
8. [JAPIC医療用医薬品集2011] 更新情報Mail 2011年4月版	毎月10日	外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	<a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a>
		〈JST JDream IIから提供〉	<a href="http://pr.jst.go.jp/jdream2/">http://pr.jst.go.jp/jdream2/</a>



# JAPIC 漢方医薬品集

2011年  
1月発行

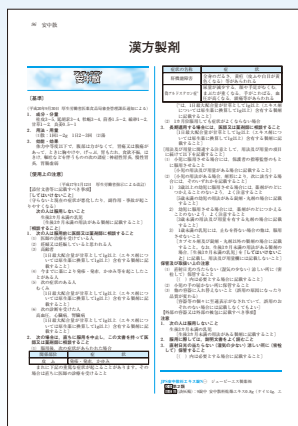
効能効果対応標準病名一覧付

画期的

国内流通の医療用漢方製剤、一般用漢方製剤の添付文書情報を網羅しました



本書は、国内流通の医療用漢方製剤、一般用漢方製剤の添付文書情報を網羅し、医療用漢方製剤に対応する標準病名の一覧（効能効果対応標準病名一覧）を本邦初めて収録するなど、従来にない画期的な書籍です。漢方製剤の適正使用やレセプトチェックにご利用ください。



## 収録内容

- ◎医療用漢方製剤
- ◎一般用漢方製剤
- ◎効能効果対応標準病名一覧

価格：2,940円(税込)

B5判/約600頁

財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行 ☎ 0120-181-276

丸善出版株式会社 発売 TEL 03-6367-6038

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

## ゆっか

きみがよらん、いとらん。リュウゼツラン科。きわめて丈夫。6月に花をつけるが、花期が短い。なかなかそろって満開にならない。葉は硬く先がとがっていて、扱いにくい。しかし、冬も緑を保ってくれるし、花が咲くのが待ちどおしい。(ks)



JAPICホームページより  
http://www.japic.or.jp/

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。